

平成 30 年 5 月 1 日 Vol. 86

小川和代



新年度も、ひと月が過ぎました。どたばたと過ぎる時間ですが・・・子ども達には一刻も無駄な時間はない様子。日一日と、新しい生活になじんでいきます。周囲の環境から、自分で理解していく事の正確さ、速さ！！新社会人に引けを取りません(笑)毎日毎日、大きくなっていきますね。

応答と理解

「子育て」とか「こども理解」というと、何か責任や、正確さが求められているようなイメージですよね。そして、いかにも大人が優位で、こどもは従者みたい・・・冒頭にも記したように、こどもの能力は大人の能力に全く引けを取っていません！！その一方で、一人では生きるすべがないのも事実です。「働き賃金を得る事」や「生活力」が未熟です。「生きる力」がないのですよね～、ここが大人になる為の課題です。では、自分自身はどうやって大人になったのでしょうか？どうやって「生きる力」を持ち得たのでしょうか？学校で勉強したから？もちろんそれも大事、でも最も影響しているのは、多くの大人や周囲の人達と関りや、ごくごく自然な経験を通して、様々な理解や知識を得て過ごしてきたことが自分を大人にしていってくれたのではないのでしょうか？

ならば、「一番大きな存在である親の関わりとは？」なんて難しく言うとも一層何か責任や、正確さが求められているような感じがしてドキッとしますよね。こどもが小さければ小さいほど「応答的な関わり」をすると良いとされています。応答的？「応答する」を和英辞書で検索すると Response、「的」になるように ability をつけると Responsibility になります。そこで、Responsibility を英和辞典で検索すると「責任」になります。だから、応答的な関わりは「こどもが求めていることに応じる責任」となります。ということは、こどもが何を求めているか理解しなくてはなりません。「理解」は understand ですね。その語源は under と stand に分かれていて下から支えるということ。だから、こども理解は「この子のどこをどう支えたらいいのか」となります。

むむむ・・・わかるようなわからないような・・・そこで・・・

5月26日内藤 Vita 先生(等身大株式会社代表)の子育て講演会

慶応大学卒の吉本芸人という異色の経歴を持つ彼女は、すっかり大人になった今、大学受験のサポートや、等身大コミュニケーションの講演を中心に活躍中です。まさに、当たって砕け、砕けてはより大きく成長し、立派な大人になった彼女の話は説得力と納得性が満載！！必聴は、彼女の長太っ腹な両親の話！難しく考えなくても、親だからこそ、「この子のどこをどう支えたらいいのか」は直感と親心で十分網羅できてしまってるんですね～。Take it easy！自分らしいお父さんとお母さんでいることが、自分らしく生きる人を育てる味噌です!!是非 Vita 先生の話聞いて、元気をもらいに来てください！！

等身大株式会社 HP toshindai.com